

# 現地レポート／ 友永雄吾（文化科学研究科 地域文化学専攻）

派遣先：メルボルン、オーストラリア

派遣期間：2006年6月15日～2006年9月11日

2006年8月18日報告分（授業の登録の有無／無）

## 授業・研究の進捗状況



- バルマ森林のレッドガムの大木にて撮影 -

7月8日にバルマ・キャラバン・キャンピング・パークに到着。当パークにて約6週間滞在（7月8日—8月12日）。

1週目：バルマ森林に設置されている公共機関（ヨルタ・ヨルタ・ネイション・ランド・カウンシル）での聞き取り調査。

2週目：クメラグンジャ・アボリジナル・ヴィレッジ（以下、クメラグンジャ）での聞き取り調査。シェパトンのバンガロン・カルチャー・センターでの聞き取り並びに参加観察。

3週目：バルマ森林周辺及びクメラグンジャ並びにシェパトンに居住するアボリジナル個人へのインタビュー調査。

4週目：インタビュー調査の継続とバルマ森林内に設置されている専門学校（ヤンビーナ専門学校）とシェパトン市内に設置されている専門学校（ゴールバーン・オーベンス・リバー専門学校）（以下、専門学校）のアボリジナル特別教室（クーリー・ユニット）の見学と参加観察。

5週目：インタビュー調査継続。専門学校見学と参加観察の継続。ヨルタ・ヨルタ・ネイション・ランド・カウンシル及びクメラグンジャ・ランド・カウンシル職員への聞き取り調査。その他、クメラグンジャに設置されている独立行政法人（ヘルス・ケアセンターとキンダー・ガーデン）での聞き取り調査。

6週目：インタビュー調査の継続。専門学校の見学、参加観察の継続と聞き取り調査。センサスに関する調査。シェパトンの地方裁判所におけるアボリジナルに対する特別裁判（クーリー・コート）の見学。シェパトンの1小学校に設置されているアボリジナル学級（マネガ）の見学と聞き取り調査。

調査進行のための準備：

1. 公的交通機関が整備されていないため、中古車を6週間レンタル。また無料で自転車を入手
2. クメラグンジャにて調査を開始するため、クメラグンジャ内のヘルス・ケアセンターとランド・カウンシル職員との顔合わせ。さらに、バルマ森林内に設置されているヨルタ・ヨルタ・文化センターとダルニア文化センター職員との顔合わせ。また、バルマ森林より70キロ南に位置するシェパトンにあるバンガロン文化センター職員との顔合わせ

主な調査：

1. クメラグンジャ、バルマ、シェパトンに居住するアボリジナルの人々へのインタビュー調査。とりわけ前者2地

域では、非アボリジナルの人々へもインタビュー調査を実施

2. クメラグンジャに設置されている公共機関（以下、公）と独立行政法人（以下、独）での聞き取りおよび参与観察
  1. ランドカウンスル（公）への聞き取り調査（内容：雇用、教育並びに国勢調査に関する質問）
  2. ヘルス케어・センター（独）への聞き取り調査（内容：健康、診療施設の活用状況と機能に関する質問）
  3. キンダー・ガーデン（独）での聞き取り（育児、進路、教育に関する質問）
3. クメラグンジャ周辺のアボリジナルの人々にゆかりのある地域の訪問 1. 埋葬地、キャンピング・サイト、カヌー・オースカー・トゥリー、墓地 etc…)
4. バルマに設置されている公共機関（以下、公）並びに独立行政法人（以下、独）を中心とする聞き取り及び参与観察
  1. ヨルタ・ヨルタ・ネイション・ランド・カウンスル（公）での聞き取り調査（内容：雇用、教育並びに国勢調査に関する質問）
  2. ヤンビーナ専門学校のクラス見学、参与観察（アボリジナル・アート・クラス：2回、ローカル&ランド・マネージメント・クラス：5回）及び聞き取り（学校設立の歴史背景、目的など）
  3. 製材会社での聞き取り調査（内容：伐採地と先住民との関係を中心とする質問）
  4. 森林保護に従事する仮雇い職員及びボランティア職員の調査に同行（内容：バルマ森林に生息するレッドガム伐採地であるクープの確認及び伐採規定（直径1メートル以内）違反のクープ探索）
5. シェパトンでの聞き取り及び参与観察
  1. バンガロン・カルチャー・センターでの聞き取りおよび参与観察（内容：歴史、雇用、教育並びに国勢調査に関する質問）
  2. ゴールバーン・オーベンス・リバー専門学校のクーリー・ユニットの見学、参与観察（アボリジナル・アート・クラス：5回）及び聞き取り（学校設立の歴史背景、目的など）
  3. オーストラリアン・フットボール、ネットボールの見学
  4. シェパトンの地方裁判所におけるアボリジナルに対する特別裁判（クーリー・コート）の見学
  5. シェパトンの1小学校に設置されているアボリジナル学生のみ提供されている学級（マネガ）の見学と聞き取り調査（内容：学校設立の背景、目的など）。
6. 上記で示したいくつかのイベントのビデオ撮影
  1. 雇用： バンガロン・カルチャー・センターの1職員が従事する下水道設置の際のインスペクションに関する仕事の撮影
  2. 教育： ヤンビーナ専門学校のローカル・ランド・マネージメント・クラスとクーリー・ユニットのアボリジナル・アートの撮影
  3. 余暇： オーストラリアン・フットボール、フィッシングならびにボート・トリップの撮影

## 生活関連状況

バルマ到着当初は、メルボルン市内と比べ10度程度の気温差があり体調を整えるのに苦労した。しかし、日中は大変温かく、調査実施に際しどのような支障も無かった。また、天候にも大変恵まれ、宿泊施設の環境も良く、調査を順調に進めることができた。

## その他報告すべき事項

現在、メルボルン大学を中心に、以下3つのことに従事している。

1. 来年より実施予定の長期調査のための資金を得るため、オーストラリア政府から募集されている2つのエンデバー・アワードへの応募（締め切り日：8月25日と31日）。
2. 今年末にシドニーにて開催される国際学会で発表するための申請書の作成（締め切り日：8月31日）。
3. 8月30日にラ・トローブ大学で発表する部落差別問題に関する発表原稿資料の作成。

### 授業・研究の進捗状況

6月16日にメルボルンに到着。当初1週間は、市内ユースホテルにて滞在（16-25：内17-18はバック・パッカーにて宿泊）。次いで、7月上旬まで友人宅で滞在（6月25日-7月3日）。その後、7月8日まで同ユースホテルにおいて滞在。

#### 調査進行のための準備：

1. ラ・トロープ大学のジョン・モートン教授とメルボルン大学のウェイン・アトキンソン教授へ挨拶
2. ジョン教授より今回の調査への全面的バックアップに関する意向と、現在、当大学にて講師を務めるジュディー先生（アボリジナルでヨルタ・ヨルタ出身の女性）を紹介していただく。さらに、9月上旬に、ラ・トロープ大学にて日本のマイノリティー、とりわけ私が関係する部落問題に関する報告が出来るよう取り計らってもらう
3. メルボルン大学のウェイン教授より、院生室の使用を許可していただく。コンピューターとプリンターの使用が可能となり、調査に必要な書籍やデーターを容易に取り出すことが可能となった

#### 実際の調査：

1. 市内クーリィ文化遺産センターと郊外のアボリジナル・アドバンスメント・リーグを中心に調査を開始
2. 前者のセンターでは、資料リサーチを中心に実施
3. 後者のセンターでは、ボランティアとして3つのイベントに参加（1、エルダーへの昼食会、2、ファミリー・フェスティバル、3、葬式）
4. オーストラリア先住民族の文化や歴史を共有するためのイベントNIDACウィークが7月2日から9日まで開催され、その1つのイベントであるアボリジナルチームと警察チームが対戦したオーストラリアン・フットボールの観戦及びビデオ撮影
5. 同じくNIDACマーチへ参加及びカメラ撮影

7月8日に第2調査地であるバルマ森林へ赴き、8月11日までキャラバンパークにて宿泊。

#### 調査進行のための準備：

1. 公的交通機関が整備されていないため、中古車を6週間レンタル。また無料で自転車を入手
2. クメラグンジャ・リザーブにて調査を開始するため、リザーブ内のヘルス・ケアセンターとランド・カウンスル職員との顔合わせ。さらに、バルマ森林内に設置されているヨルタ・ヨルタ文化センターとダルニア文化センター職員との顔合わせ。また、バルマ森林より70キロ南に位置するシェパトンにあるバンガロン文化センター職員との顔合わせ

#### 主な調査：

1. クメラグンジャ・リザーブにて調査を開始。とりわけ、ヘルス・ケアセンターとランド・カウンスルの職員に聞き取り調査を開始
2. 更に、バルマ森林内に設置されているヨルタ・ヨルタ文化センター職員へのインタビューを実施
3. バンガロン文化センター職員とのバルマ森林警備への動向。シェパトンに居住するヨルタ・ヨルタの人々とのコンタクト及び聞き取りとインタビュー調査の実施

### 生活関連状況

メルボルン到着当初は、夏季から冬季への環境に適応するため時間を要した。7月に入り極端な気候の変化により体が慣れてきた。その他生活に関して注意することは現在のところは特に見当たらない。

### **その他報告すべき事項**

インターネットを確認する環境がcaろうじて確保されているものの、日本語にて送信されるメールを読むことが困難である。もちろん、日本語にてメールを送信することも出来ない。双方が出来る環境が整っているのは現在私が宿泊する場所より、60キロほど南下したところになる。それ以外に、不自由なことは現在のところ見当たらない。しいて言えば、物価が驚くほど高騰し、特に、ガソリン代は日本よりも高額になっていることがあげられる。